

1 今年度の取組と自己評価、具体的な課題

【学習指導】

(1) 今年度の目標

- ア 多角的な視点を持たせ、より深く考え、より良い解決策を考えさせ、教科のおもしろさ、学びの楽しさを追求
- イ デジタルの活用及び教科等横断、探究的な学びの強化
- ウ 個別最適かつ多様な学びを実践
- エ 生徒理解に努め学習状況を把握し、適切な学習環境設定及び資格取得支援を実施
- オ 年間授業計画に基づき計画的な授業実施、主体的な学習意欲の喚起、可能性及び能力の最大限の伸長

(2) 今年度の結果

ア 生徒の主体的な学習への取組み評価 90%以上	→	73%
イ DX 授業活用 90%以上	→	82%
ウ 生徒の授業満足度 90%以上	→	81%
エ 保護者の学校満足度 90%以上	→	79%
オ 国際教育活動参加率 50%以上	→	6%
カ コンテスト等イベント参加3回	→	1回
キ 週末自宅学習時間2時間以上 80%以上	→	22%
ク 全教科多様な学びの実践	→	達成

(3) 今年度の具体的な取組と課題について

ア 俯瞰し全体を観て根本を知る力、課題設定から情報収集、分析、協働、まとめ、発表まで一連の過程を進め、論理的思考力、言語力を高める。

→ 総合的な探究の時間で哲学対話を取り入れ、情報収集及びまとめと発表の力の向上がみられた。しかし、課題設定や分析や協働に関しては継続的な指導が必要であり、課題である。

イ DXの推進、体験・実践型の授業を実施する。

→ 校内のDX化は進み、2教科において電子教科書を導入。生徒への効果的な指導につながる。全教科でのDX化には実技科目などで遅れが見える。体育や芸術にも取組を計画させている。

ウ AIを用いた学習による学力向上を支援する。

→ 英語科においてDEEP-Lを導入し、更にCopilotを活用し、問題解決の手助けとする術を身に付けた。今後は生徒がどの場面でいかにAIを活用するかの知識と判断力を向上させる。

エ 面談情報及びデータ分析に基づいた教科指導、資格取得の支援、外部連携による学習支援を実施する。

→ 校務支援の様々なソフトを利用し、また教員間での効果的な情報共有と分析を進めた。進路業者による分析を生徒指導に取り入れた。より多方面の情報集と分析を推進し、ICT担当者会議を発足

させる。

オ 年間授業計画に基づき計画的な教科等横断授業を実施、発展的な学習を展開する。

→ 各単元や時期に応じて、教育内容や特別活動との関連も含め教科等横断授業を（９）回実施。生徒の興味関心を深め、学習効果を高めた。更に教科数や回数を増やし、生徒の発展的な学びにつなげる。

カ 多様な学びの実践に向けて、相互授業見学の実施及び研修の全員参加、授業評価結果の活用、外部専門家との連携を実施する。

→ 授業見学や研修を効果的に実施し、学校運営連絡協議委員などの専門家からの指導助言をいただくことで、各教員と本校の教育活動全体のレベルアップを図った。アップデートに遅れないよう、計画的段階的な研修が必要である。

【進路指導】

（１）今年度の目標

ア ３年間を見通した系統的なキャリア教育計画の実践、社会的・職業的自立意識の醸成

イ 適時・適切に進路情報を提供

ウ 挑戦を支援し、高次の進路希望を実現するため、生徒一人ひとりの進路活動の進行管理徹底

（２）今年度の結果

ア 進路決定率 100% → 93%

イ 進路指導満足度 90%以上 → 83%

ウ インターンシップ及びボランティア活動参加率 100% → 5%

エ 学校外活動参加率 50%以上 → 12%

オ グローバル教育満足度 80%以上 → 81%

（３）今年度の具体的な取組と課題について

ア 第３学年進路活動状況について

進路決定者 131名（進路決定率 98%）

大学 52、短期大学 2、専門学校等 57、就職 8、その他 12、未定 3（単位：人）

イ 学校行事等について

①入試研究会 「受験ガイダンス」として３学年の総合の時間で実施に変更

②奨学金の説明 「奨学金ガイダンス」として独立させ、年間行事予定に明記

③マナー講座 ジョブキャンプの事前指導として位置づけた。

④ジョブキャンプ 夏季休業中に１学年全生徒を対象に実施

⑤深沢キャリアの日 ３年生による合格体験講話に変更しての実施

ウ各学年進路ガイダンス

① 1 学年 ・進路集会：6 月実施→校内（進路指導部）にて進学に向けたガイダンスを実施

・進路漫才：11 月実施（外部連携）

・小論文講座：12 月～2 月実施（外部連携）

・学問×職業ガイダンス：3 月実施（外部連携）

② 2 学年 ・分野別ガイダンス：7 月実施（外部連携）

- ・学校別分科会、志望理由ガイダンス：12月実施（外部連携）
- ・進路別説明会：2月実施（外部連携）
- ・上級学校説明会：3月実施（外部連携）

- ③3学年
- ・分野別ガイダンス：5,6月実施（外部連携）
 - ・志望理由書ガイダンス、バーチャル面接：7月実施（外部連携）
 - ・面接、小論文指導：夏季休業中実施（外部連携）

エ自立支援プログラム

- ・芸人から学ぶコミュニケーションのコツ（3年）：7月実施
- ・みんなでつくろう「クラスの和（輪）」（3年）：7月実施
- ・オープンキャンパスガイダンス（2年）：12月実施
- ・志望理由対策ガイダンス（2年）：12月実施
- ・事例から考えるリスクマネジメント（3年）：12月実施

【生活指導・特別活動・部活動】

（1）今年度の目標

《生活指導》

- ア 健康かつ安全な学校生活をするための環境整備及び生徒の自己管理能力の育成
- イ お互いの人権を尊重し、他者を思いやる心の育成、自主自律の精神を育成
- ウ 授業規律、協働活動を推進

《特別活動・部活動》

- ア 学校行事や部活動等が生徒主体の活動、挑戦の場となるように工夫・改善・支援を実施
- イ 協働・集団活動を通じた社会性の育成
- ウ 次代を担う人材として、活気ある学校生活の場となるような支援の実施

（2）今年度の結果

《生活指導》

ア 学校生活満足度 90%以上	→	83%
イ 外部専門家活用満足度 90%以上	→	28%
ウ コンディションレポートの通年実施	→	通年実施した
エ 専門家と連携したケース会議月 1回以上	→	年に 8 回実施した

《特別活動・部活動》

オ 部活動等加入率 80%以上	→	53%
カ 行事参加率 90%以上	→	91%
キ 生徒会活動満足度 80%以上	→	88%
ク 生徒提案サークル・研究会発足	→	7 会発足

（3）今年度の具体的な取組と課題について

《生活指導》

- ア 時代や状況の変化に柔軟かつ迅速に対応する。
 - 国内外の状況や情報を正確につかめるよう、情報リテラシーや規範意識を集会等で指導。生徒の主体的な学びにつなげる必要が急務。
- イ 教育相談、特別支援教育、外部専門家や地域との連携、居場所整備を推進させ、個別最適な支援を実施する。
 - SC 3 名、YSW 1 名を自立支援担当や養護教諭が担任と連携して適切に活用。生徒の問題に早期対応した。しかし自ら相談しない生徒の情報を取りこぼす可能性があり、より体系的組織的に取り組む必要がある。
- ウ 充実した授業展開のため授業規律を徹底する。
 - 教室等授業環境の改善と毎時の教員による指導を徹底。
- エ デジタルを活用して学校生活を支援する。
 - ICT を活用し、提出物を電子化することで教員の負担の軽減と個人情報の紛失を防止。ICT を悪用した不正な回答提出などを防ぐための方策の共有が必要。
- オ SOS の出し方教育、いじめの未然防止・早期発見・早期対応を行う。
 - HR や集会、またアンケート等で、情報の早期の一斉収集に努め、対応が必要な案件の洗い出しをした。

《特別活動・部活動》

- ア 生徒主体の異学年活動の充実に向けて支援を行い、生徒会や委員会活動等の活発化を目指す。
 - 既存の部活動に入る生徒は依然として低い傾向である。しかし、研究会やサークル活動を推奨し、自身の興味の深い学びや体験に取り組む風土が広まってきている。
- イ 学校行事や部活動等を通じた挑戦の機会を支援し、社会性を育てるための活動支援を行う。
 - 生徒主体の行事運営を活性化し、教員が粘り強くサポートしている。生徒は中学校までに主体的に行事運営をした経験に乏しく、今後も手厚い支援が必要である。
- ウ 校内美化の推進、日本の伝統文化の精神の涵養及び国際理解をさらに促進する。
 - 私物のみならず公共の物を大切にする意識を醸成する。校内の設備に関する整備が進み、生徒が環境を大切にする気持ちを持たせるのに適したタイミングである。

【学校経営・地域連携】

(1) 今年度の目標

《学校経営》

- ア 企画調整会議及び研究開発部、教務部を中心に進行管理を行い、複数協働業務遂行を基本とし、学年を支えつつ迅速かつ安定した改革型学校運営を行う。
- イ 適切な生徒対応、服務規律の厳正・徹底、情報資産の厳密な管理、情報の共有化と会議の効率化、協働体制の拡充、勤務体制の整備、産業医等専門家による面談を実施する。
- ウ 適切かつ迅速な業務執行、計画的な事務執行により学校運営を円滑にする。
- エ 生徒一人一台端末の利用実績向上、デジタル技術の積極活用等ハイブリッドな学校運営及び校内業務遂行に移行する。

《地域等連携》

ア 地域等と授業、生徒会、委員会、部活動の連携を促進し授業及びキャリア教育の内容を深める。

イ 学校運営連絡協議会による学校評価、PTAや同窓会との連携、奉仕活動・部活動を通じた近隣小学校・中学校及び地元商店街との積極的な交流を実施し、開かれた学校教育を行う。

(2) 今年度の結果

《学校経営》

ア 教職員の在校時間の適切な管理 超過勤務時間前年度比 10%減 → 前年度比 1%増

イ 年間年休取得 15 日以上 → 13 日

ウ 一般需用費センター執行割合 70%以上 → 64%

エ 服務事故根絶 → 0 件

《地域連携》

ア 地域等との連携評価 90%以上 → 地域お祭り全て参加

イ キャリア教育満足度 90%以上 → 82%

(3) 今年度の具体的な取組と課題について

《学校経営》

ア 企画調整会議を機能させ、敏速な経営方針の徹底を図り、効率的な学校運営を実現した。

イ 教職員一人一人のライフ・ワーク・バランスを意識し、管理職よりの退庁促しなどを実施。年間の休暇取得率は減り、特別活動への取り組みが課題である。

ウ 経営参画ガイドラインに則り、経営企画室における業務執行の適正化と充実化を図ることができた。

エ 服務事故の研修を年間 8 回以上実施。教職員間が互いをいい意味で確認しあう環境ができた。

《地域連携》

ア 生徒会や部活動の生徒が中心になり、地元商店街でのイベント（桜新町さくらまつり、桜新町ねぶたまつり）への更なる参加や、地域清掃、地域ボランティアを実施した。

イ 近隣大学や専門学校への訪問等を経て、進路に関する意識や知識を高めた。

【募集対策・広報】

(1) 今年度の目標

①生徒にとってより充実した学校生活となるよう教育活動を実践

②教育活動の様子を中学生やその保護者等に伝わるように、丁寧な広報活動を実施

(2) 今年度の結果

・中学校・塾等への訪問校数 150 校以上 → 278 校

・学校説明会への来校者数 1000 人以上 → 1291 組

・ホームページの更新 1000 回以上 → 本更新 334 回

(3) 今年度の具体的な取組と課題について

・進路実現につなげられるような教育活動を実施し、学校生活の様子や良さが中学生にも伝わるように、日常の教育活動を積極的に発信する。

→HP において新しい記事を 300 項目以上アップするなど積極的に発信。しかし、次年度の本校の取組を

より多くの新規開拓に当たる中学生に対し、広報することが難しかった。

・学校説明会や中学校及び塾訪問等を組織的に実施する。

→教育内容や環境整備が充実してきて積極的かつ組織的に多くの学校等を訪問できた。しかし私立高校の授業料無償化もあり、第一志望として選ばれる教育内容の充実及び近隣中学校ではない中学への広報戦略が課題として残った。

2. 次年度以降の課題と対応策

(1) 学習指導

- ① 対話や協働を通じて、問いを立て、解を模索させ、数的思考力を高め、教科のおもしろさ、学びの楽しさを追求
- ② 学びの土台である基礎の徹底理解、デジタル及びログの活用、発表及び振り返りの場の強化
- ③ 個別最適かつ多様な学びを实践
- ④ 生徒理解に努め学習状況を把握し、適切な学習環境設定及び資格取得支援を実施
- ⑤ 年間授業計画に基づき計画的な授業実施、数値を使った論理的思考法の実践、主体的な学習意欲の喚起、可能性及び能力の最大限の伸長

(2) 進路指導

- ① 3年間を見通した系統的なキャリア教育計画の实践、社会的・職業的自立意識の醸成
- ② 適時・適切に進路情報を提供
- ③ 挑戦を支援し、高次の進路希望を実現するため、生徒一人ひとりの進路活動の進行管理徹底

(3) 生活指導・特別活動・部活動

- ① 健康かつ安全な学校生活を送るための環境整備及び生徒の自己管理能力の育成
- ② お互いの人権を尊重し、他者を思いやる心の育成、自主自律の精神を育成 ③時間管理、授業規律、協働活動を推進
- ③ 学校行事、委員会、部活動等が生徒主体の活動、活躍、研究、挑戦の場となるように工夫・改善・支援を実施
- ④ 協働・集団活動を通じた社会性の育成
- ⑤ 次代を担う人材として、活気ある学校、生活の場となるような支援の実施

(4) 学校経営・地域連携

- ① 新たな受入環境充実校として校内環境整備に努め、生徒の学びに対する高次の挑戦を支援し、教職員自らも成長する組織体となるような仕組みを構築
- ② DX化のより一層の推進
- ③ 教職員が率先してマインドチェンジし、生徒の学習及び学校生活を支援
- ④ 未来志向の組織的な学校運営を実施
- ⑤ 教育公務員としての高い使命感・倫理観をもち、服務規律を遵守するとともに、協働意識を向上させ、職場環境のウェルビーイングやライフ・ワーク・バランスを高めていく適切な業務遂行
- ⑥ 経営企画室における業務の適正化を図り、合理的かつ円滑な執行管理
- ⑦ 外部専門家及び地域等との連携による生徒の学びを支援

⑧ 地域等との交流や連携、公開講座等により社会とのかかわりや社会課題を理解

⑨ 地域とともに自他の生命尊重を基盤とした生徒の健全育成推進

(5) 募集・広報

① 本校の学びを周知するため模擬授業として小中学校にて実施

② 生徒にとってより充実した学校生活となるよう教育活動を実践

③ 教育活動の様子を中学生やその保護者等に伝わるように、丁寧かつ速報性を意識した広報活動を実施